

4) 成人市中肺炎の重症度別患者数等【2017年度】

2017年度＜2017年4月1日～2018年3月31日退院患者＞

重症度	症例数	平均在院日数	平均年齢
軽症	30	8.53	50.57
中等症	126	29.53	79.52
重症	32	31.47	85.63
超重症	13	28.54	84.92

＜集計方法と定義＞

- ◆対象患者は一般病棟に1回以上入院した、医科レセプトのみの患者
- ◆入院後24時間以内に死亡した患者さんは対象外です。
- ◆症例数が10未満の数値の場合は、－（ハイフン）で表示しています。
- ◆入院契機病名および最も医療資源を投入した傷病名に対するICD10コードがJ13～J18で始まるものに限定しています。
- ◆重症度分類は、A-DROPスコアを用いています。

【解説】

重症度分類は、A-DROP※1スコアを用いています。

A-DROPシステムの重症度別治療指針では、「軽症」の患者さんは外来治療が原則ですが、一部で高熱が続いて食事がとれない、咳がひどく睡眠が障害される、といったケースで入院となる場合があります。当院の成人市中肺炎※2は「中等症」の患者さんが最も多いですが、「中等症」以上の患者さんの平均年齢は70歳代後半から80歳を超え、高齢者の方ほど重症化する傾向にあることがわかります。当院では患者さんの状態に応じて適切な治療を行っていますが、どの重症度も年々増加しており、より一層のケアが必要であると考えます。

※1 A-DROP: 以下の項目のうち入院時（入院中に発生した場合は発症時）の状態に該当する項目の数（1つの項目に該当すれば1点；5点満点）

- ・男性70歳以上、女性75歳以上
- ・BUN 21mg/dL以上または脱水あり
- ・SpO2 90%以下（PaO2 60Torr以下）
- ・意識障害あり
- ・血圧（収縮期）90mmHg以下

【0点:軽症、 1～2点:中等症、 3点:重症、 4～5点:超重症】

※2 市中肺炎とは: 病院外で日常生活をしていた人に発症する肺胞（はいほう: 空気がたまる場所）の急性炎症です。